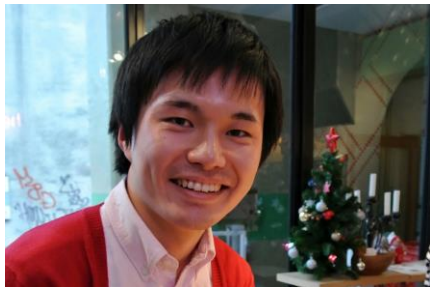


ふりがな 氏名	いいだ たかや	都道府県	東京都	
	飯田 貴也			
所属/肩書	早稲田大学在学、こども国連環境会議推進協会、 NPO 法人新宿環境活動ネット			
私の ESD活動	こども向けのESD活動を、事業者・行政・ NPO/NGO・市民グループ・学生等と協働で推進 しています			

活動の概要（特に、取り組みの独創性、革新性、成果について説明してください）

『こども国連環境会議推進協会』

国際連合大学の環境教育を機軸としたプログラムを実践する NGO です。私は事務局サポーターとして、中高生を対象としたESDとリーダー教育に取り組んできました。具体的には、持続可能な社会づくりに向けた先進的な取り組みをしている企業・研究機関・大使館等との協働ワークショップを通じて、ユース世代が将来の社会と自分自身との関係を見つめ、世界が置かれた状況を学びながら課題解決力を身に付けることを目指しています。2000年の発足から、20以上の宿泊型ワークショップ等を実施し、各80名程度の参加者を迎えてきました。近年、課外活動としての環境ワークショップが各方面で増えてきていますが、環境問題は「持続可能性」の一面であるのに対し、“地球にやさしい”というエコロジーの観点に傾倒しがちであるように感じます。当団体は「持続可能性」を大きなテーマに掲げ、環境・経済・社会・文化といった幅広い視座から社会問題の解決を狙っている点、周囲を巻き込むためのコミュニケーション・プレゼンテーションセミナー等、能力開発をはじめとしたリーダー教育を併せて実施している点が特徴です。

『新宿環境活動ネット』

2004年から『エコギャラリー新宿』を指定管理者として運営する NPO です。とりわけ、私は『まちの先生見本市』というイベントの事務局スタッフとして、区民・事業者・行政が連携した、小中学生が対象の ESD 推進活動に携わっています。地域の人材やプログラムを集め、学校の先生方に活用を促すことで、教育現場の ESD を地域で応援するシステム構築を目指しています。年に一度の当イベントは、2013年度で13回目を迎え、例年約50団体が出展し、各1,500名程度の来場者を数えます。さらに、これがきっかけとなって年間100ほどの出前授業が誕生しており、“立場と分野”を越えた地域発の活動である点が特徴です。

・こども国連環境会議推進協会：<http://junec.gr.jp/>

・NPO 法人新宿環境活動ネット：<http://www.sean.jp/>

今後のESDの発展のために、若者はどのような役割を担えますか？

「持続可能性」という言葉が世に送り出されてから30年が経とうとしていますが、この課題が解決されていないばかりか、社会の諸問題と比べて、認知度・浸透度が低いように感じます。抽象的で明快なイメージが湧きにくい概念であることは否めませんが、それでも社会へ広げていくべき、大切なキーワードであることに変わりはありません。そのためには、若者が旗振り役を担っていくことが求められるのではないのでしょうか。

また、「持続可能性」という概念やその重要性が十分に認識されていない現代社会においては、これに関する取り組みへの賛同も得られにくい状況です。このような逆風の中でも ESD を発展させていくためには、知識やデータといった専門知が不可欠であることはもちろん、ESD 推進者である私たち自身が“あの人の提案することならやってみよう”と周囲を納得させ、巻き込み、実行していくための人間力を磨くことが必要になるように思います。